



東京で学ぶ 京大の知 シリーズ20

「コミュニケーション」を考える

近年、私たちは、実に多くの場所で「コミュニケーション」という言葉に触れ、ときに円滑な対話（環境構築）能力、いわゆる「コミュカ」などが求められたりしています。ただ、「コミュニケーション」という言葉を思い浮かべてみると、そこには、言語、心、社会、メディア、異文化など、実に多くの要素が関わっていることに気付きます。今回は、霊長類学、社会学、文化人類学、言語学など幅広い分野から「コミュニケーション」を考えることで、私たち「人間」の社会を見つめ直すきっかけとなればと思います。

[主催] 京都大学 [講演時間] 各回18時30分～20時

参加費無料



第1回
1月13日(水)
正高 信男
霊長類研究所
教授

心を通わせる能力は どうして進化したのか？

私たちは、他人の気持ちを察することができるし、また、できると自分では思い込んでいます。こうした心を通わせる資質はどのようにして誕生したのでしょうか。また、他人の気持ちがわかるなどどうして思い込むことができるのかを考えます。



第2回
1月20日(水)
佐藤 卓己
教育学研究科
教授

民意の 読み書き能力

現在、「決められる政治」で速度が求められる一方、時間をかけた熟議の民主主義も必要とされています。世論調査とその報道への政治的要請や、対話による合意形成の可能性について、戦前の「輿論」と現代の「世論」を区別しながら考えます。



第3回
1月27日(水)
木村 大治
アジア・アフリカ地域研究
研究科 教授

アフリカの声の世界と インターネット・コミュニケーション

アフリカには「相手を特定しない大声の発話」といった「奇妙な」音声コミュニケーションがありますが、それは意外に、「ツイッター」などに類似しています。それらの比較から、コミュニケーションの可能性の広がりについて考えます。



第4回
2月3日(水)
藤田 耕司
人間・環境学研究科
教授

人間言語の 特質とその起源・進化

言語は私たち人類だけが持つ能力で、他の動物コミュニケーションには見られない特質を備えています。それはどのようなもので、どうやって誕生したのかを眺めながら、人間とは一体どういった生物種なのかを一緒に考えてみましょう。



■ 開催場所・問い合わせ先

京都大学 東京オフィス 東京都港区港南2-15-1品川インターシティA棟27階

TEL: 03-5479-2220 FAX: 03-5479-2221 E-mail: t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp

URL: <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/>

申し込み方法 [お申し込みはWEBまたはFAXで]

京都大学ホームページからWEBでお申し込みいただくか、申込用紙をダウンロードしFAXでお申し込みください。各回定員**100名**、締め切りは**12月22日(火)**です。全4回のシリーズですが、1回のみお申し込みいただくことも可能です。なお、定員を超えるお申し込みをいただいた場合は抽選とさせていただきます。



📱 スマートフォン・携帯電話・タブレット端末から上記QRコードを読み取り、京都大学のホームページにアクセスください。